

新潟活性化計画

その準備はできている。

Revitalize
2013年度 新潟活性化委員会

新潟の地域活性化のための調査・研究報告書

あなたは、私たちが暮らす新潟市のことをどれだけ知っているでしょうか。
新潟市の人口は？産業は？歴史は？そして未来は…

一般社団法人新潟青年会議所 未来の新潟創造室 新潟活性化委員会では「新潟を活性化させる」ということを2013年度のテーマとし、調査・研究を進めてきましたので、ここで報告させていただきます。

新潟のさまざまな動きを知っていただき、そして、新潟の創造的なまちづくりに興味を持っていただければ幸いです。

登場人物

THE CHARACTERS



「まあくん」

スイーツが大好きな新潟青年会議所のおにさん。座右の名は、花よりも花を咲かせる土になれ。



「しんちゃん」

まちづくりに関わると女の子にモテるんじゃないかとちょっと勘違いしている大学生。将来の夢は公務員。



「みえこ」

考えるよりもまず行動、アクティブで負けず嫌いな若手女性経営者。苦手なものは紫外線と草食系男子。

REVITALIZATION OF NIIGATA

「決戦、開港五都市」 第一話

「シビックプライド、世界の動き」 第二話

「CodeName:meme」 第三話

「なぜ、今、話し合いなの」 第四話

「若者の視点、希望」 第五話

「N・Visionプロジェクト、始動」 第六話

「守るべき場所、その覚悟」 第七話

「明かされる歴史」 第八話

「アトリウム計画」 第九話

「意識すべき相手」 第十話

「愛するもの」 最終話

第一話 決戦、開港五都市

1858年、日米修好通商条約によって新潟は開港され、異国船が現れる。だが、それはあまりにすぎなかった。

開港五港って知ってる？

日本は江戸時代、鎖国していたけれど、5つの港が開港されたんですよ。

そう、函館、横浜、神戸、長崎、そして新潟。この五都市は、貿易の中心となって、外国の文明が真っ先に入ってくる日本のトレンド発信の地になったんだよ。

今でも異国情緒溢れるまちのイメージがありますよね。

5つの都市、それぞれが魅力を磨きながら発展してきているけれど、ちょっと意外な結果があるので紹介するね。全国の約1000の市区町村を対象とした地域ブランド調査という指標があるんだけど、新潟市は何位くらいだと思う？

うーん、新潟市は本州日本海側唯一の政令指定都市だし、20位くらいですか？

残念！2011年の新潟市の結果は184位、意外な結果かもしれないけど、ちょっと情けないよね。

えーっ、だとしたら上位はどんな市区町村があがっているんですか？

1位は札幌市、2位は函館市、3位は京都市、4位は横浜市、5位は神戸市、そして長崎市は18位。明治に入り日米修好通商条約で開港し、新潟と同じ歴史をたどった都市が、実はいずれも20位以内に入っているんだよ。

新潟だけダメってどういうこと！どんな基準になってんのよ！

認知度や魅力度、地域イメージ、居注意欲度、観光意欲度、産品購入意欲度など、外から見た視点として67項目が設定され調査された数字なんだよ。新潟市外の人からは、そう見えてるってこと。



地域ブランドっていう一つの側面だとしても、どうして、こんな差が生まれてしまったんだろう。新潟は暮らしやすいまちだと思うんだけど…



REVITALIZATION OF NIIGATA

第二話 シビックプライド、世界の動き

多民族国家のヨーロッパの人は、自分のまちをどう思っているのか。世界が大きく動き出す中、日本はどうなっていくのか。

シビックプライドって言葉聞いたことある？

多民族でもあり、都市間競争が強く意識されているヨーロッパでは、とても大事にされている考え方だと聞いたことがあります。

シビックプライドを日本語で表現するなら、市民が都市に対してもつ自負や愛着って感じかな。日本でも、まちづくりという自分たちのまちの個性を見直す取り組みの中で注目され始めているんだよ。(*1)

シビックプライドに関して、例えば、世界では、どんな取り組みがあったりするんですか？

イギリスのバーミンガム市では、「You are your city. (あなた自身があなたのまちです)」というメッセージでキャンペーンが展開されたんだよ。日本語の郷土愛とはちょっとニュアンスが違って、自分はこの都市を構成する一員で、ここをより良い場所にするために関わっていますよ、といったある種の当事者意識に基づくものなんだ。(*2)

新潟のことは、なんとなく好きだって感覚はあるけれど、自分の住んでいるまちをそんな風に考えたことなかったです。私たちが、まちのためにできることってあるんでしょうか？

あるに決まってるじゃない、なんでもいいから行動！

そうそう、そういう気持ちスタートかもしれないよ。実は、新潟にはいろんな活動や取り組みをしている人たちがいるんだよ。シビックプライドというキーワードで、まちのことを考えてみるときに、こんな言葉を思い出してみるといいんじゃないかな。



あなたのまちは愛されているだろうか。そこに住み続けたい、そこで働くことが好きだ、そこに遊びに行きたい、と思われているだろうか。まちのために何かしたいと思っている人がいるだろうか。そのまちは、わくわくする予感に満ちているだろうか。(*3)

2012年11月18日：上古町商店街で開催
シビックプライド会議—新潟2012「デザインが結ぶ楽しい地域活用」

*1, 2, 3
シビックプライド研究会 編 (2008)『シビックプライド』宣伝会議
P6, P164



REVITALIZATION OF NIIGATA

第三話 CodeName:meme

学生たちが古町で動き出す。学生たちは、なにを考え、なにを目指しているのか。その一つの動き、CodeName:meme。

古町に学生たちがよく集まっているんだけど、meme（ミーム）って場所だったかな。



meme（ミーム）は、文化の伝達や複製の基本単位、というももとの意味なんです。若者を古町に呼び込み、文化を発信するっていう意味を込めて名付けられた学生サロンです！



学生サロン!? どんなことしているの？



商店街や企業、行政と学生がコラボレーションして、地域の活性化を話し合っている場所で、学生が運営する、まちづくりの基地のようなところでしょうか。



学生がまちづくりなんてすごいね！いつ頃からそんな活動が始まったの？



2012年に新潟県立大学の関谷ゼミが主体となって開設して、毎年学生が入れ替わりながら地域の活性化のためにさまざまな取り組みを行なっているんです。新潟市内だけではなく、今では、東京の大学だったり、いろんな大学ともコラボレーションしていますよ。



例えば、どんな取り組みをしているの？



新潟・古町の活性化が主な目的なんです。商店街へ人を誘導するための取り組みだったり、佐渡の夷（えびす）商店街で行われたムーンナイトフェスティバルというイベントや、スマートフォンとまちを連動させた実験だったり。まちづくりの提案も積極的におこなっていますし、新潟市のこれからの公共交通のあり方についても個人的にとっても興味があるんです。



学生の柔軟な発想って大事よね。



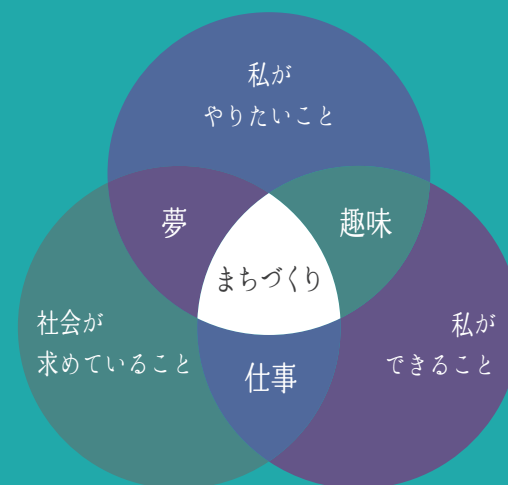
そうそう、驚かされるのが本当に多い。学生自身が気づいていないこともあるんだけど、世界を変えるきっかけになるようなアイデアだったり、問題意識だったりをもっていたりする。それを周りの大人がどれだけ汲み取って、背中を押してあげられるか、そんな気持ちが大事なんだよね。meme（ミーム）の動きに注目してみると、これからの新潟の活性化のヒントが見えてくるかもしれないね。



meme（ミーム）

2012年6月オープン

新潟市中央区古町通6番町965-1 古町モール6古町ビル1F



第四話

なぜ、今、話し合いなの

人はなぜ話し合うのか。自分一人で行動するだけではだめなのか。東日本大震災で地域の課題解決のきっかけになったことは。

話し合いばかりでは、前に進まない、なんてことをよく聞くけど、今、話し合いの大切さを伝え、その実践方法を伝えようとしている団体があるんだよ。

話し合いに実践方法ってあるんですか？

例えば、東日本大震災の後に、まちの復興をどうやって進めていけばいいか、といった課題に取り組むときに、行政や個人の力では解決できないことがたくさんあったんだ。そのときにとても役立ったのが「話し合い」だったんだ。

でも、話し合いだけで解決するんでしょうか？

もちろん、事業や活動に繋げるんだけど、なにが課題なのか、問題なのかを、まず始めに共有する、そのプロセスとして話し合いを大事にしているということなんだよ。

確かに、一人ひとり問題としている部分は違うから、まずは、なにを共通の課題とするかいうことは大事ですよ。

そうなんだよ、いいことも悪いことも含めての地域課題について「どうあるべきか」を論じることが大事なんだ。ここでの話し合いについては明確な定義があって、議論することは「理念・あり方」を話し合うだけなんだ。そして「書く」ということ。

話し合いなのに、書くことが大事なんですか？

そう、話すということだけであると、力のある人や、声の大きな人に、一人ひとりの貴重な意見がかき消されがちなんだ。だから、話し合いでは、話すことよりも聞く力、導くよりも引き出す力を大事に考え、それぞれが書いてから話す、というルールにしているんだ。普段は物静かな一人の女性の意見が、地域の課題解決のきっかけになった、ということもあったんだよ。



新潟市の職員の方とお話をしていると「協働」によるまちづくり、なんて言葉も聞くんですが、そこでも話し合いは活用できるものでしょうか？



当たり前じゃないの！話し合いをして、意識共有しなきゃ始まらないでしょ。お互いの想いをシンクロさせなきゃ。

協働を前提に、新しい公共という考え方も生まれてきているんだよ。NPO や行政、企業、大学、自治会、町内会、そういった組織全体をひとくりにして新しい公共と考えているんだ。例えば、大学は教育機関ではあるけれど、学生の教育は、大学だけでは完結できない、教えられない、と認識できると、新しい公共が必要であることがわかってくるんだ。同じになることを考えたらダメだけど、得意なことがそれぞれあることを知る。そして、単独ではできないと認識する。できるかできないかをそれぞれの団体で議論して、単独では解決できないとわかったときに協働する。そのときに大事になるのが、目指すものや理念の共有なんだ。



なるほど！そこで話し合いという考え方が生きてくるんですね。

そうだね。地域課題が多様化している今、いいことも、悪いことも含めての地域課題を解決するために協働の場が必要になってきていて、そこで役に立つのが話し合い。事業活動のための会議と、課題解決のための話し合いは違う、というところ少しわかりやすくなるかな。



これまではいざ行動してみると、なんのために始めたのか、なにがしたかったのか、いつの間にかわからなくなってしまう、なんてことがよくあったのですが、これからは話し合いの考え方を大事にしてみます！

そうだね。では、大事なポイントを3点補足しようかな。まず1点目、事業活動を目的化しないこと。なにをやるか、ではなくて、課題解決のためにどのように進めるか、ということは何度も何度も本音で話しをして、本当の課題を見つけ、判断すること。2点目は、多様な参加や意見表明を大事にすること。みんなが意見を言っているかどうかを確認して貴重な意見を引き出すこと。3点目は、プロセスを大事にすること。課題解決のために話し合い、目指すものを共有し、活動し、最後にその取り組みを振り返ること。そのプロセスを歩むことで、感心が増し、人が育ち、地域力や行政力が育まれていくんだね。

話し合い文化推進にいがた

新潟市市民協働課・新潟市市民活動支援センター・新潟医療福祉大学・新潟青年会議所・新潟市社会福祉協議会ボランティア市民活動推進センター・有志の市民で構成され、新潟における『話し合い文化』の構築を目指す協議体

第五話 若者の視点、希望

まちづくりってなんだろう、自分にできることって。一人の若者の想いが、意外な私たちで伝播していく。

「まちづくり」ってどんな活動か説明できる？



まちおこしイベントとか、商店街の活性化でしょうか？いざ説明しようとすると難しいものですね…

そうだね。では、少し噛み砕いて説明してみようかな。基本的に「まちづくり」は、よい「まち」を「つくって」いくということ。建物や施設をつくるハード面だけではなく、生活全体のソフトな面も含んでいる。では、よい「まち」とはどういうものか。住んでいるすべての人にとって、生活が安全に守られ、日常生活に支障がなく、気持ちよく豊かに暮らせ、緊急時にも対応できる「まち」。そして、住んでいてよかったという実感を心から感じ、次の時代にも継続が期待できるもの。(*4)



なるほど！こういう説明だとわかりやすいですね。次の時代にも継続していくって大事ですね。

「まちづくり」は、地域をよりよくしていこうとする行動を包括的に含んだ言葉。でも、言葉は使っているうちに当初の意味を失ったり、手垢がついて新鮮さを失いやすいものでもあるよね。「まちづくり」という言葉、大事に、優しく育てていきたい言葉だね。



そうですね！よいまちをつくる、なんだかワクワクしますね。

住んでいる一人ひとりが「まちづくり」を意識していたら、その人たちが住むまちは、とっても前向きで、まちの未来も明るく豊かな感じがするよね。



僕もその一人になりたいと思っています。そういえば、ちょっと話は脱線しちゃうかもしれないんですが、僕のまわりに新しい動きがあったんです。

新しい動きって？



大学でまちづくりサークルができたんです。

まちづくりサークル!?面白そうだね。どれくらいの仲間ができたの？



今年できたばかりなんですけど、50人位です。まだ立ち上がったばかりで、なにをしたらよいかわからない感じなんですけどね。

50人ってすごいね！取り組めることは、さまざまあるから大丈夫。まちづくりに取り組む若い人たちが大勢いる限り、きっと、よいまちになっていくね。



そう思います！



行動、行動！やってみなきゃわからないことがいっぱいあるんだから。

そうだ、みんなの参考になるように、どんなまちづくりの取り組みがあるかちょっと紹介してよみうかな。ぜひ、まちづくりサークルのこれからの活動のヒントにしてみてね。



- ・中心市街地など賑わいや人々の交流の場をつくり、人間を生き生きさせること
- ・「まちづくり」を行なう人づくりを行なうこと
- ・質の高い生活をもてる文化的、芸術的な充実を図ること
- ・異なる人々が結びつく地域コミュニティを育成してゆくこと
- ・市民への情報提供、互いの交流を図ること
- ・イベント、祭りなど、地域を個性的にし、元気づけるコトおこしをすること
- ・観光、文化、娯楽などにより人口の定着や雇用の場をつくること
- ・地域内に産業を起し、働きの場と収入の確保を図ること
- ・水と緑と花を豊富にし、生活を潤いあるものにしてゆくこと
- ・美しく魅力的で個性的な景観づくりを行なうこと
- ・自然や緑の保護を図り、自然との豊かな体験をさせること
- ・交通が快適に安全に行われるようにしてゆくこと
- ・歩行者にとって快適な空間をつくること
- ・伝統的な文化を保全復元する、活用すること
- ・ゴミを少なく、リサイクルを図り、環境に負荷をかけないようにすること
- ・市民として自覚して成長してゆく市民学習、生涯学習を行なうこと
- ・子どもたちが目を輝かせて生活を送れるように支援すること
- ・病の発生を予防し癒して、健康で活力ある生活ができるようにすること
- ・高齢者、障害者などが安心して社会活動ができるようにすること
- ・公害や環境汚染、災害の防止を図ること
- ・日常生活から阻害された孤独な人々を支援してゆくこと
- ・万一の災害などに、適切に対応できるようにしておくこと
- ・犯罪を予防し、場合により適切な措置をとること

- ・将来を考えた土地利用の適正化を図ること
- ・広域的な地域間の連携を図ってゆくこと
- ・国際的な理解を深め平和や環境をテーマに協力しあえるように交流連携すること (*5)

新潟県立大学、まちづくりサークル
2013年6月発足

*4, 5

田村明 (1999)『まちづくりの実践』岩波新書 P28, P38-39

REVITALIZATION OF NIIGATA

第六話 N・Visionプロジェクト、始動

5つのプロジェクトが動き出す。それは新潟市民の志によるもの。そのプロジェクトが目指すものとは。

「志民委員会」という団体が2013年に発足したんだけど知ってるかな？



そもそもどのように呼んだらいいのですか？



志のある民と書いて「しみん」。正式には「志民委員会N・Visionプロジェクト」といって、新潟市域を良くしよう、という想いを持って、その実現に向けて意見するに留まらず責任をもって行動する「志」のある者が集まって活動しよう、という趣旨のもと発足した団体なんだ。



他にもいろんなまちづくりの団体があると思うんですが、志民委員会は、どんなことを考えているんですか？



新潟市は、これから大きな節目の年をいくつも迎えるんだよ。2014年は新潟地震50周年と萬代橋の重要文化財指定10周年、2017年は政令指定都市移行10周年、2019年には開港150周年。これらの節目の年を契機として、将来のまちの姿を描き、そして、新潟市の発展に向けて自主的・自立的に取り組もうということを考えているんだ。



具体的に取り組みはスタートしているんですか？



すでに5つのプロジェクトチームが動き出しているんだ。「自分たちで描く将来のまちの姿、夢・ビジョン」「開港150周年に向けて湊まちを活かした魅力と活力のあるまちづくり」「地域力、市民力が支える意欲ある食と農のネットワーク形成」「地域経済の活性化と地域企業の基盤強化」「新潟市の発展に向けた志のある人材の掘り起こしと育成」それぞれのプロジェクトに興味があれば、もちろん私たちも参加できるんだよ。



新潟の未来のためには、それぞれ大事なプロジェクトですね！



行政まかせではなく、自分たちで行動していこう、そういった気持ちは、とても大事なんだよ。



なるほど、やっぱり行動ですね！



もう、さっきから何度も言ってるでしょ！みんな動き出してるんだから、ちゃんと周りの動きにも注目しなきゃ！



そう、私たち一人ひとり取り組めることがあるんだよ。そして、行動するときに大切なこともあるんだ。それは、みんなの描く未来像を描くこと。バラバラの動きではなくて、それぞれの関係性を作り出すことが大事なんだ。未来の子どもたちのために、という上向きのベクトルで、一緒に考え、行動していきたいね。



志民委員会N・Visionプロジェクト

2013年3月発足

新潟の“志民”の自ら望む将来のまちの姿を想い描き、新潟市の発展に向け「共に実践する場」





第七話 守るべき場所、その覚悟

大きな時代の流れが新潟にも危機をもたらす。そのとき新潟を守るためにはどうしたらいいのか。私たちに守ることができるのか。

新潟市では毎年「まちづくり講座」という市民向けの講座を開催しているんだけど、今年も参加してきたので少し紹介しようかな。



今年はどんなテーマでした？



今年は大きく2つのテーマがあってね、一つは、まちの楽しみ方の極意としての「まち歩き」NHKで放送されたプラタモリっていう番組はとても人気だったよね。そして、もう一つは、まちのちからを引き出す「まちを経営する」という視点。



「まち歩き」は僕も最近よくしてますよ！いろんな発見ができて結構面白いんですよ。でも「まちを経営する」という言葉は始めて聞きました！



昔は、人が増える中でどうやってまちを作ってゆくのか、という都市計画の考え方が重視されていたんだけど、今は状況が変わってきている。人が減り、工場、事業所、商店が減る中で、どうやってまちを守ってゆくのか、ということが大切な考え方になってきているんだ。そのときに、会社を経営するのと同様に、まちを経営するという視点が大事になる、という話なんだよ。



僕の活動でも活かせることがあったら嬉しいです！まちを経営するっていうのは具体的にはどう考えたらいいんでしょうか？



例えば、「戦略」「組織」「財務」などの考え方。まちづくりの活動というと「補助金頼み」「ボランティア任せ」「イベントばかり」の活動になりがちなんだけど「お金がない」「人がいない」「アイデアがない」といった悩みだって、経営の考え方を取り入れることで、具体的な解決策が見えてくるんだ。



例えば、どんな解決策があったりするんですか？



たとえば、商店街全体をひとつの会社だと考えて、これまで個別で契約していたゴミの収集や、カード決済手数料、清掃、そういったものを商店街全体で契約交渉することで、費用削減することができるかもしれない。そこで削減できた費用を、商店街の次の活動のために投資していく。そうやってまち全体として投資できるお金を生み出し、新しい事業を繰り返し、人が訪れたいと感じる新しい価値を生み出し続ける。



なるほど！コストを減らして、利益を大きくし、その利益を投資して、お客のニーズにあわせて次の新商品、サービスを作り続ける、会社では当たり前に行っていることですね。



生活はどんどん便利になって、まちは成長し続けるイメージはあるけれど、これから少子化が進んでいくと、人は大都市に吸収されていきながら地方都市は薄まっていき、全国で人口が増える地域は、ほとんどない状況。人口の減少によって市の財政も厳しくなっていく中で、社会資本整備がどれだけやれるか、ということを考えてみると、郊外が開発され広がり続けるまちは、守れなくなってしまう可能性もあるんだよ。



経営の視点で、まちを守る、ということが大事だとわかりました。



数字を読めずして、まちづくりはできないんだからね！



会社での事業では当たり前のことだけど、まちづくりも一過性のもではなくて、継続性が大事なんだよ。まちづくりを事業としてとらえ、価値ある商品やサービスをつくって対価を受け取り、仲間を集め、資金管理を積極的に行ない、プロジェクトをしっかり管理し、少しずつ成長していく。継続的に取り組み続けることで、着実にまちをよくしていく。そんなまちづくりを意識して、一緒にまちの力を引き出していきたいね。



まちづくり講座
新潟市で平成7年度から開催



第八話 明かされる歴史

私たちの暮らす新潟は、どんなまちなのか。記憶から失われた歴史をたどると、思いもなかった姿が見えてくる。

新潟市の人口って何人位か知ってる？



新潟市のホームページに掲載されてました！だいたい80万人位ですよ。



正解！では、日本の都市でいうと人口の順位は何位だと思う？



えっと…、考えたこともなかったです。



2013年度の統計では、特別区の東京を除くと15位、人口では全国でも上位に入るんじゃないかな。ちなみに100万人を超える市は11都市、東北の仙台市は100万人都市で、杜の都って愛称で知られているよね。



新潟市も頑張れば100万人都市になれるのかな…



少子化が社会問題として捉えられている中で、都市が人口的にも発展していくというのはどういう条件が必要なんだろうね。ちなみに、新潟県の話になるけど、明治の頃、新潟は全国で一番人口が多かったんだよ。



全国で一番だったんですか！



昔は都市化が進んでいなかったから地理的な豊かさが大事だったんだね。新潟は江戸時代から日本一の米どころ、大阪と北海道を結ぶ北前船航路があり、幕末に門戸が開かれた開港五港のひとつである新潟港を持ち、佐渡の金山も控えていた新潟県には、多くの人が集まる条件が揃っていたんだね。



なるほど、多くの人が集まる条件か…



人口のことで驚いていたらまだまだ新潟人とは言えないね。明治期の新潟市は、とてもキラキラしたまちだったんだよ。



新潟のことは好きですけど、昔の新潟のことって案外知らないかも！



せっかくの機会だから、新潟の歴史について、おもしろい話を紹介しようかな。



ぜひお願いします！



みなとまち、というと、物流の拠点という部分にとらわれがちなんですけど、そこには、市民による多様な文化や、芸術・観光、教育など、これまで知らなかった新しいモノや文化が溢れていて、トレンドの発信基地でもあったんだよ。



たしかに人が交流する場所には、多様な文化が生まれそうですね。



古町芸妓（げいぎ）や料亭文化なども新潟ならではのもの。京都の祇園、東京の新橋と並び称されて日本三大芸妓のまちとして知られていたんだよ。



なるほど、おもてなしの心が、今の新潟にも受け継がれてきているんですね。



横浜のお嬢様学校って呼ばれているフェリス女学院大学って知っているかな。そして、フェリス女学院大学の前身となる学校が実は新潟市にあった、って聞いたら驚くかな。



新潟にあった学校だったんですか！



明治の頃、英語を学ぶために全国から新潟に学生が集まってきていたんだよ。最初は英語が学べる学校を新潟は歓迎していたけれど、キリスト教の影響を心配して、浄土真宗のお寺の人たちが新潟から追い出したなんて話も残っていたりするんだけどね。



もし、そのまま学校が残っていたら新潟はどんなまちになっていたんだろう。



他にも面白い話があるよ。東北の三大祭りとして有名な、秋田の竿燈まつり、青森のねふた祭り、仙台の七夕祭りは知っているかな。諸説あるけれど、いずれも新潟で行われていたお祭りを、東北の人たちが真似て始めた、なんて噂もあったりするんだよ。



本当ですか!?! なんだかすごいですね！



秋田、青森、仙台、いずれもお城があってお殿様がいた城下町。あまり派手な振る舞いができなかった町民は、商人文化が盛んで多様なお祭りが存在した新潟にお祭りを楽しみに見に来ていたらしい。時代も変わり、そのお祭りを見ていた人たちが各地でお祭りを華開かせていった、ということらしいよ。



なんだか、新潟ってすごいところだったんですね。





だった、なんて過去形じゃだめよ！もっとよいまちにしていってしょ！

そうそう、これからだって新潟の歴史や特徴を活かしてまちづくりを進めていけば、日本や世界でも注目されるまちになっていけると思うよ。



歴史都市新潟研究会
新潟の女子教育や新潟の開港、明治の新産業、新潟の偉人などを中心に公開講座を開催



REVITALIZATION OF NIIGATA

第九話 アトリウム計画

まちのシンボルともいえる場所が、再び輝きだそうとしている。どんな試みがされているのか、そして、その未来は。

アトリウムって呼ばれている場所が新潟にあるんだけど、どこにあるか知ってる？



古町にあるNEXT21の入り口のことでしょね。



もともとは、古代ローマ時代の住居の中庭を表していた言葉で、人々が集まる社交場の役割を果たしていた場所でもあるんだ。現代では、エントランスホールの壁面や天井にガラスを使用した開放的な空間のことで、ギリシャ語で「明るい、晴れた」という意味なんだよ。それから、NEXT21のアトリウムは、ちょっと面白い場所でもあるんだ。



面白い場所ですか？



あそこは公開空地（こうかいうち）って呼ばれていて、公共空間として開放されている場所なんだよ。



待ち合わせで座っている人がいるだけで、ちょっともったいない場所だな、なんて思っていたんですが、そういった理由があったんですね。お店とかどんどん出せばいいのに！



これまでNEXT21のアトリウム空間は公共空間という位置づけでもあったので商業行為は認められていなかったんだけど、最近の中心市街地の衰退を踏まえ、公開空地の活用方法や、位置づけを見なおそうという動きが始まっているんだ。



雨の心配もいらぬし、開放的な雰囲気を活用すれば、面白いことができそうですね。



市民の芸術作品の展覧会や、食のイベント、空間装飾、ダンスなど、さまざまな活用の実証実験もスタートしていて、古町のシンボリックな場所でもあるアトリウムを、どんな風に活用したらいいか新潟市では、広く市民からアイデアを募集しているんだよ。



学生や、若い人に活用してもらえる場所にしたらいいんじゃないの？



公開空地ってどんな場所であるべきなんだろうね。もともとの役割は社交の場、誰もが知っている新潟市のシンボリックな場所になるといいね。



NEXT21 公開空地社会実験推進会議
事務局：新潟市 地域・魅力創造部



REVITALIZATION OF NIIGATA

第十話 意識すべき相手

これまで意識していなかった相手、私たちはだれと戦っているのか、そして、これからどうやって戦っていけばいいのか。

新潟市に友人が遊びに来たら、どんなところに連れて行ってあげる？



やっぱり日本酒や美味しいごはんを食べさせてあげたいですね。



では、観光だったら？



うーん、お城はないし、歴史的な建物もあまり知らないし…



新潟は、どんどんまちをスクラップアンドビルドしていったから、古い街並みや、歴史的建造物は、それほど多く残っているとは言えないかもね。それだけ、市民に財力があった、ということでもあるんだけどね。



そうだ！酒の陣とか食の陣にあわせて遊びにくる友人は多いですよ。



歴史的な建造物や自然を楽しむといった観光目的ではなくて、新潟にはイベントで訪れてもらっているという傾向が強いかもね。まちにお金が落ちるといって見ると、観光施設の少ない新潟は、宿泊のない通過型の観光客が多いという傾向もあるようだね。一方で、イベントや学会、大会などのコンベンションであれば、遠方から集まってくるから宿泊になることが多く、食事や宿泊など、まちにお金が落ちやすい、といった話も聞いたことがあるよ。



新潟市に来てもらうことを考えると、どうしても観光を意識しがちなのですが、コンベンションという視点もあるんですね。



日本にはさまざまな魅力的なまちが存在するから、観光だけではライバルに負けてしまうかもしれないね。でも、その人にとって必要なコンベンションが新潟市で開催されていれば、新潟市に来る理由はつくることができるかもしれない。例えば、お祭りや博覧会、見本市、音楽祭、花火、演劇、国際コンペ。新潟では毎日にかしらのイベントが開かれている、そんなまちの姿は、活気が感じられるよね。



いろんなスポーツの世界大会が新潟市で開催されていたら面白そうですね！新潟市の特徴を活かすなら、水に関するスポーツなんかもいいですね！この前、小針浜に行ったら、ビーチテニスを楽しんでいる人たちがいましたよ。ビーチテニスや、ビーチバレーの世界大会だって面白そうですね。



人はそれぞれ、いろんな興味を持っているから、多様な興味に沿って集まる機会を用意して、新潟市に訪れるきっかけをつくってあげることができれば、新潟の食や、おもてなしの心など、新潟の魅力に触れてもらえることができるよね。



そういえば、佐渡で行われているアース・セレブレーションっていう国際芸術祭の前日は、新潟市内に外国人が結構いたわね。新潟市は佐渡の玄関口でもあるから、もっと佐渡と連携とっていったら外国人も喜んでくれるんじゃないの！



新潟市には、日本だけではなく、世界中から人が集まってくる、そんなまちの未来が描けたらなんだかワクワクしてくるね。



新潟市異業種交流研究会協同組合 新潟観光振興研究会
異業種同志の会員と関係機関との相互交流を通じて、互いに親睦を深めながら技術交流、共同開発、経営問題などについて協議推進し、成果を上げると共に、地域社会にも貢献することを目的とした団体、そしてその研究部会。

REVITALIZATION OF NIIGATA

最終話 愛するもの

わたしたちが描く未来とは。その未来を実現させるために必要なものとは。新潟の活性化に繋がる大切な心。

わたしたちのまちは愛されているだろうか。そこに住み続けたい、そこで働くことが好きだ、そこに遊びに行きたい、と思われているだろうか。まちのために何かしたいと思っている人がいるだろうか。未来の新潟は、わくわくする予感に満ちているだろうか。

明治期の新潟は、みなとまちとして、人、もの、金、情報が世界中から集まり、キラキラとしたまちの雰囲気溢れていました。

未来の新潟を考えるときに、このようなイメージを私たちが共有しませんか。

「世界中から人が集い、行き交う活気あるまち」

過去の歴史に沿って、キラキラとした未来のまちの姿を描く。未来像を描くに留まらず、具体的な目標、ゴールを意識する。地域ブランド調査で新潟市が上位に位置する、そんな目標を意識するとしたら、どんな取り組みが必要となるのでしょうか。私たちにできることはどんなことでしょうか。

その取り組みは、現在の延長線ではなく、未来像からの逆算で、私たちのまちを創っていく。そんな考え方がこれからの新潟には必要です。

私たちのまちづくりの取り組み、ひとつひとつは小さな歯車かもしれませんが、その小さな歯車も、共通のイメージで、ちゃんと繋がってれば、大きな歯車を回すことができます。

交易都市、港湾都市として繁栄した新潟市には、人を排除するのではなく、来る者拒まずといった気風がありました。現在の港湾都市は、市民生活や経済における役割を拡大させ、機能が多様化し、市民による文化・芸術・観光・情報発信等、港湾都市機能を多様な形で展開しています。産業の視点だけではなく、今こそ、広い世界観、視点をもった、活力あるまちづくりを市民の手でおこなっていく必要があります。他人ごとではなく、一人ひとりが今、行動を起こすことが求められています。そして、活躍できる場が新潟には存在しています。まちを構成する私たち一人ひとりの行動、それが、私たちのまちを創り、そして新潟の活性化に繋がっていくのです。

新潟を活性化させるためには、「まち」を愛する気持ちを育み、「まちづくり」を継続する力を養う。

その準備はできている。

新潟活性化委員会の調査・研究、その活動を通じて得られた大切な考え方、エッセンスをまとめ報告書とさせていただきます。新潟市は、まちをよくしようという人に溢れ、また、わくわくする予感に満ち溢れていることがわかります。「まちをよくしよう」これを読んでくださったみなさんも、きっと同じ気持ちだと思います。新潟が活性化する、その準備はできています。大きな歯車を回し続けるために、行動し、ともに歩んでいきましょう。

最後に、本報告書をお読みになっての、ご感想、ご意見などいただけますと幸いです。また、アンケートに併せ、「まちづくり」を継続する力についても別途ご紹介させていただいていますので、あわせてご覧ください。

【新潟活性化計画アンケート、「まちづくり」を継続する力】



<http://www.niigata-jc.com>

【調査・取材協力】

志民委員会 N・Vision プロジェクト
新潟市 地域・魅力創造部
新潟市 都市政策部
新潟市異業種交流研究会協同組合 新潟観光振興研究会
新潟県立大学 関谷研究室
話し合い文化推進にいがた
meme (ミーム)
歴史都市新潟研究会

【参考文献】

新雅史 (2012) 『商店街はなぜ減るのか』 光文社新書
大江正章 (2008) 『地域の力』 岩波書店
河井孝仁 (2009) 『シティプロモーション』 東京法令出版
金丸弘美 (2009) 『田舎力』 NHK 出版
木下斉 (2013) 『まちづくり：デッドライン～生きる場所を守り抜くための教科書～』 日経 BP 社
木下斉 (2009) 『まちづくりの「経営力」養成講座』 学陽書房
ジェイン・ジェイコブズ / 中村達也 訳 (2012) 『発展する地域、衰退する地域』 ちくま学芸文庫
シビックプライド研究会 編 (2008) 『シビックプライド』 宣伝会議
田村明 (1999) 『まちづくりの実践』 岩波新書
電通 abic project 編 (2009) 『地域ブランド・マネジメント』 有斐閣
中沢康彦 / 日経 トップリーダー 編 (2010) 『星野リゾートの教科書』 日経 BP 社
日本政策投資銀行 編 (2000) 『海外の中心市街地活性化』 ジェトロ
日本政策投資銀行地域企画チーム 編 (2001) 『自立する地域 その課題と戦略』 ぎょうせい
日本政策投資銀行地域企画チーム 編 (2001) 『中心市街地活性化のポイント』 ぎょうせい
速水健朗 (2012) 『都市と消費とディズニーの夢』 角川書店
久繁哲之介 (2010) 『地域再生の罨』 筑摩書房
マイケル・E・バーガー / 原田善浩 訳 (2003) 『はじめの一步を踏み出そう』 世界文化社
藻谷浩介 (2010) 『デフレの正体』 角川書店
藻谷浩介 (2007) 『ニッポンの地域力』 日本経済新聞出版社
山崎亮 (2011) 『コミュニティデザイン』 学芸出版社

新潟活性化委員会
REVITALIZATION OF NIIGATA

委員長 井川 雅之
副委員長 北村 正秀
副委員長 片山 雄基
幹事 杵藤 美栄子
幹事 宮坂 裕也
委員 田中 毅
委員 鈴木 謙太
委員 本間 健夫
委員 櫻澤 靖典
委員 高橋 浩
委員 新保 尚志
委員 池田 佳弘
委員 渡辺 雄太